

## 阿蘇山の火山活動解説資料

福岡管区気象台  
地域火山監視・警報センター

＜噴火警戒レベル 1（活火山であることに留意）が継続＞

阿蘇山では、昨日（12日）火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が急増し、非常に多い状態となりました。本日（13日）気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量はやや減少したものの、引き続き多い状態が続いています。中岳第一火口内の湯だまり<sup>1)</sup>量は火口底の1割程度で、土砂噴出は確認されませんでした。赤外熱映像装置による観測では、中岳第一火口内の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

### 【防災上の警戒事項等】

活火山であることから、火口内で土砂や火山灰が噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

地元自治体等が行う立入規制等に留意してください。

### ○ 活動概況（図 1～5）

阿蘇山では、昨日（12日）火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が急増し、1日あたり3,600トンと、非常に多い状態となりました。

本日（13日）気象庁機動観測班（JMA-MOT）が実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり2,100トンとやや減少したものの、引き続き多い状態が続いています。

中岳第一火口の現地調査では、湯だまり量は火口底の1割程度で、前回（9日：1～2割）と比較して特段の変化はありませんでした。土砂噴出は確認されませんでした。湯だまりの表面温度は火口内の噴気が多く不明でした。

赤外熱映像装置による観測では、南側火口壁の一部で引き続き地熱域を確認しましたが、最高温度は約510℃で前回（9日：約532℃）と比較して特段の変化は認められませんでした。

火山性微動の振幅は小さい状態が続いていますが、孤立型微動、火山性地震は多い状態で経過しています。

- 1) 活動静穏期の中岳第一火口には、地下水などを起源とする約40～60℃の緑色の湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいます。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少や濁りがみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出等が起こり始めることが知られています。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ ([http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)) でも閲覧することができます。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、九州大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用しています (承認番号：平 29 情使、第 798 号)。

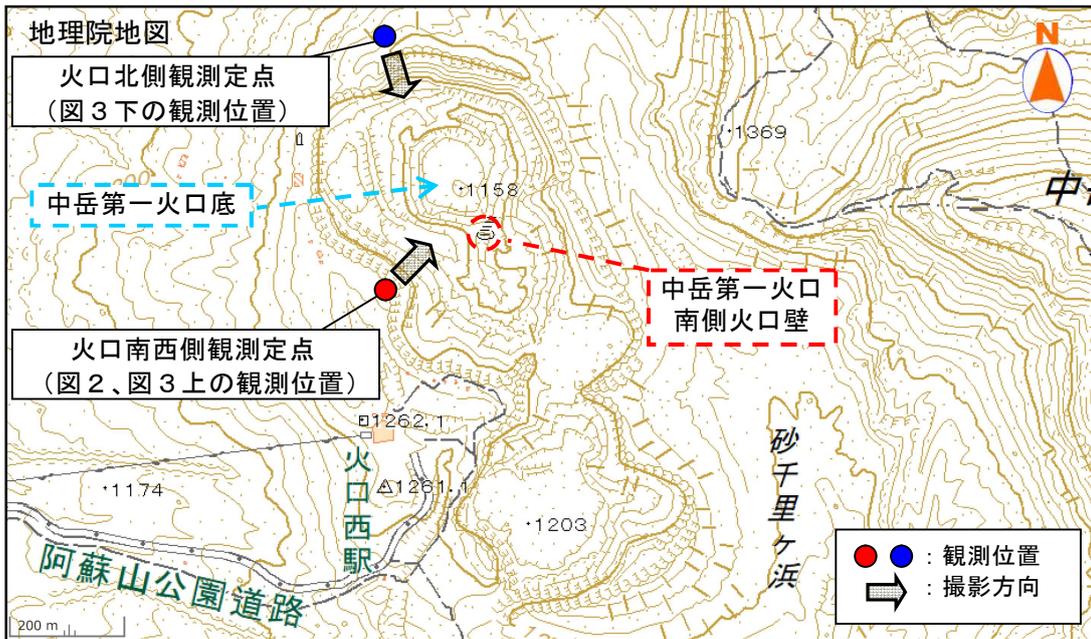


図 1 阿蘇山 中岳第一火口の現地調査観測位置図（観測位置及び撮影方向）

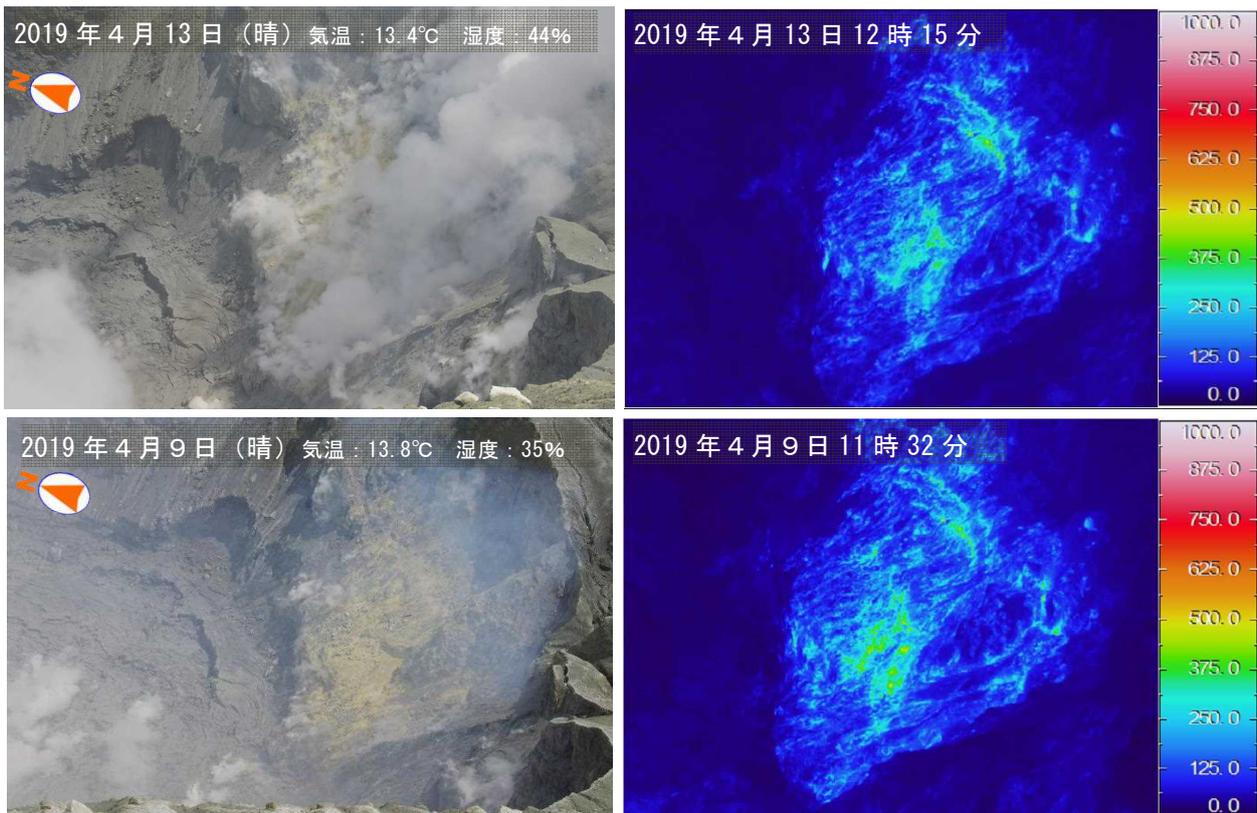


図 2 阿蘇山 中岳第一火口南側火口壁の状況（中岳第一火口南西側から観測）

赤外熱映像装置による観測では、南側火口壁の一部で引き続き地熱域を確認しましたが、最高温度は約 510°C で前回（9 日：約 532°C）と比較して特段の変化は認められませんでした。



図3 阿蘇山 中岳第一火口の状況(上:中岳第一火口南西側から観測、下:中岳第一火口北側から観測)

- ・中岳第一火口から、白色の噴煙が噴出しているのを確認しました。
- ・湯だまり量は火口底の1割程度で、前回(9日:1~2割)と比較して特段の変化はありませんでした(赤矢印)。
- ・土砂噴出は確認されませんでした。
- ・湯だまりの表面温度は火口内の噴気が多く不明でした。

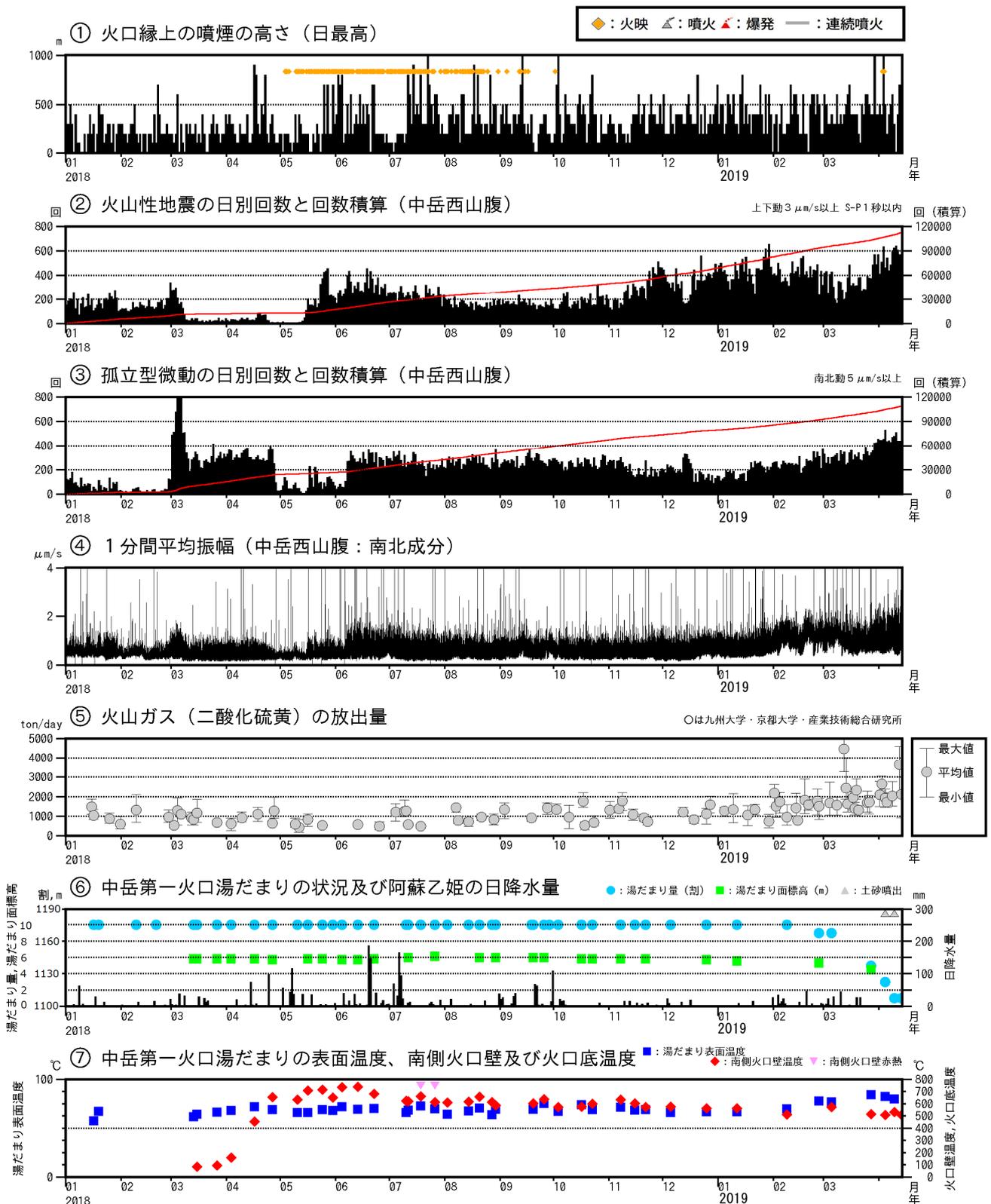


図4 阿蘇山 火山活動経過図 (2018年1月～2019年4月13日15時)

- ・火山性微動の振幅は小さい状態が続いていますが、孤立型微動、火山性地震は多い状態で経過しています。
- ・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり2,100トンとやや減少したものの、引き続き多い状態が続いています（12日：3,600トン）。
- ・湯だまり量は火口底の1割程度で、前回（9日：1～2割）と比較して特段の変化はありませんでした。
- ・本日（13日）の観測では、土砂噴出は確認されませんでした。
- ・南側火口壁の一部で引き続き地熱域を確認しましたが、最高温度は約510℃で前回（9日：約532℃）と比較して特段の変化は認められませんでした。

②と③の赤線は回数の積算を示しています。

⑦の湯だまり温度等は赤外熱映像装置により計測しています。

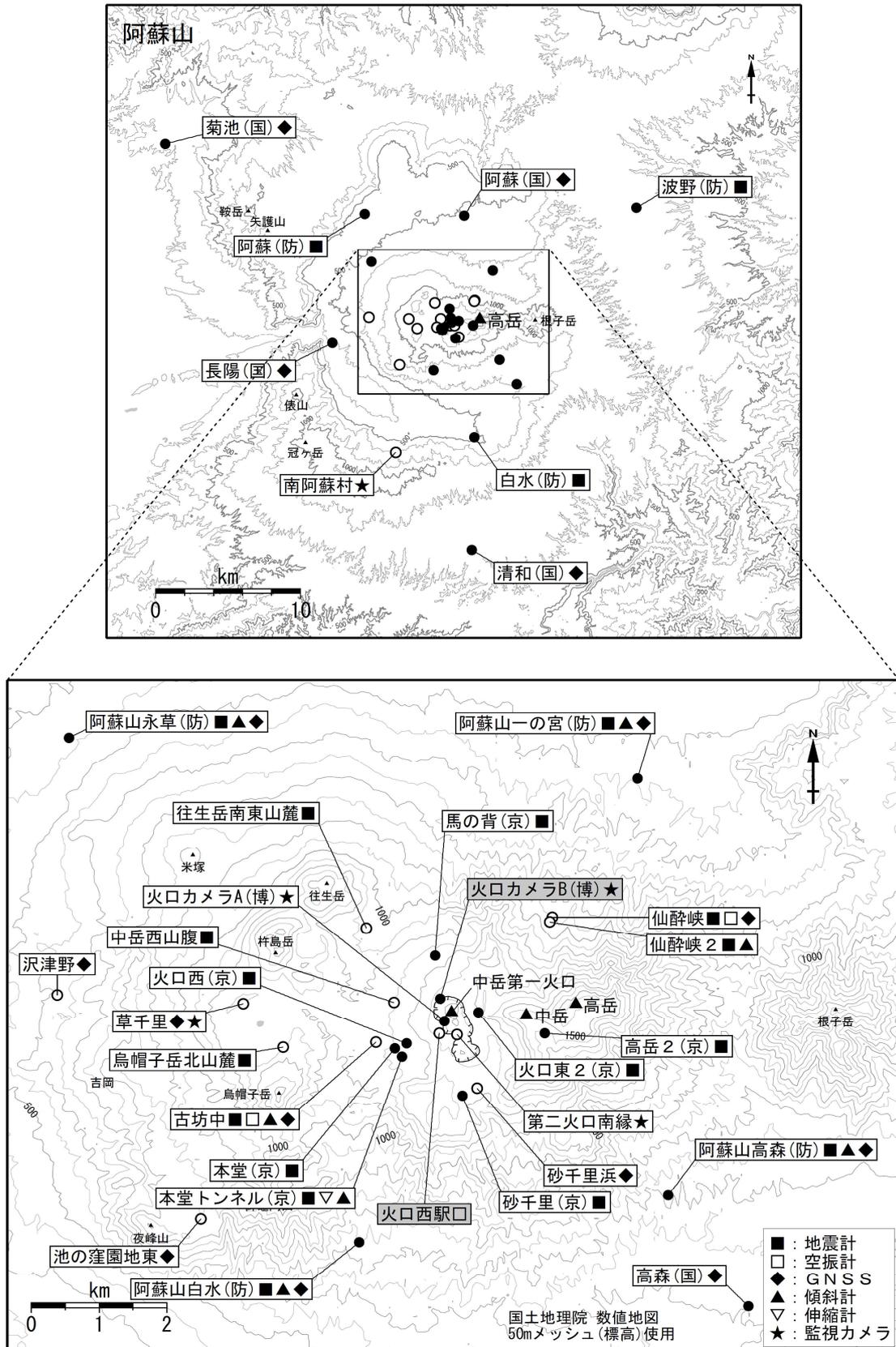


図 5 阿蘇山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
(京) : 京都大学、(防) : 防災科学技術研究所、(博) : 阿蘇火山博物館、(国) : 国土地理院  
図中の灰色の観測点名は、噴火により障害となった観測点を示しています。